

2008年

11月9日（日曜日） - 福祉を通じた与えあい 第30回両丹手話劇コンクール -

本日、「第30回両丹手話劇コンクール・文化の集い」が、両丹聴覚障害者協会の皆さん、京都北部手話サークル連絡会の皆さんのご主催により、府北部から約300人にのぼる多くの皆さんをお迎えして、本市で開催されました。本市を代表して心から歓迎を申し上げる次第です。日ごろから、関係者の皆さんには、聴覚に障害のある皆さんと一緒に心こもった福祉の取り組み、ご努力、心から敬意を申し上げます。

本市は、まちづくりの大きな柱として、ささえあい、たすけあい、与えあいの利他の心あふれる、ともに生きる共生のまちづくりを掲げていますが、文字通り、福祉の推進はその上でとても大切なことです。そして私が思うには、福祉において大切なことは、必要な支援やサービスを提供させていただいたり、ご奉仕を心をこめてさせていただくことはもちろん基本ですが、反対に、福祉の行いをなさった方においても、相手の方から多くのことを教えていただいたり、お受けされたりしていること、そしてそれに気づき、皆それぞれの中でそのことへの思いを寄せ、感謝を温めておくことがとても大切だと思っています。それは、例えば、相手の方の困難を乗り越えようとするご自身の勇気だったり、何か心の殻が取り除かれたような赤裸々な素直にきらめくお心だったり、生活や活動をともに携えて行う喜びを分かち合おうとするお気持ちだったり、何か理屈抜きにいろんな輝きや元気の力をたくさんいただいているように感じます。そんな福祉の行為者と被行為者の相互の間の魂のふれあい、利他と輝きの与えあい、喜びの与えあいの循環と発展こそが、本当の福祉であるようにも思います。

本日は、手話劇やコーラス、踊りなどを通じて、日ごろの練習の成果を全部発揮していただいて、障害のある方もない方も、舞台も客席も一体一緒になって、互いにともに交流と親睦を深め、喜びをともに深めて広げていく、素晴らしい集いになりますことを、心から祈念と確信をしています。